

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3093 号	氏 名	笹森 大貴
論文審査担当者	主査 小風 暁 教授 副査 小野 賢二郎 教授 副査 泉崎 雅彦 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>2010年1月から2013年12月に昭和大学附属烏山病院のスーパー救急病棟に入院した双極性障害の患者を対象として、その診療録を後方視的に全数調査し、双極性障害に対する薬物療法について、入院時の初回処方、最終処方を調査、検討した。調査期間中にスーパー救急病棟に入院した患者総数は1899例、そのうち双極性障害は221例であった。対象者の平均年齢は51.1歳で、患者全体の平均年齢46.9歳よりも高齢であった。スーパー救急病棟に入院した双極性障害患者に対する薬物療法は、入院時から最終投与時にかけて抗精神病薬と気分安定薬の併用が増加し、気分安定薬よりも抗精神病薬の処方率が高率であった。入院時から最終投与時にかけて抗うつ薬の処方率が減っていた。入院前にはうつ病の診断であった患者が、入院後に双極性障害へ診断変更になったことが影響していると考えられた。</p> <p>スーパー救急病棟に入院した双極性障害患者を対象に薬物療法の動向について報告した本論文は新知見を得ており、学術上の価値があり、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名：昭和大学附属烏山病院スーパー救急病棟における双極性障害に対する薬物療法の傾向</p> <p>掲載雑誌名：Bipolar Disorder 第14巻 19-24頁 2016年</p>			

(主査が記載、500字以内)